

平成 29 年 6 月 9 日

各高等学校長 殿

宮城県高等学校理科研究会
会 長 齊 藤 繁
(宮城県泉松陵高等学校長)
(公 印 省 略)

東北大学大学院医工学研究科主催「平成 29 年度サイエンス・リーダーズ・キャンプ」
開催について（通知）

このことについて、別添のとおり国立大学法人東北大学大学院医工学研究科長から案内
がありましたので、関係職員に周知願います。

なお、申込に関しては、直接申込先へ手続き願います。

➤ 募集要項・申込方法，研修内容の詳細については，
次のサイトよりダウンロードしてご確認ください
<http://www.bme.tohoku.ac.jp/news/?news=20170529170601>

事務局： 宮城県仙台第一高等学校

担当： 磯部 欣一

TEL: 022-257-4501, FAX: 022-257-4503

E-mail: science@sendai1.myswan.ne.jp

東北大学大学院医工学研究科主催 平成 29 年度 サイエンス・リーダーズ・キャンプ 受講者募集要項

1 開催の趣旨

サイエンス・リーダーズ・キャンプ（SLC）は、夏季休業期間中に全国の高等学校・中学校の理数教育担当教員に、先進的な研究施設や実験装置がある大学等の研究機関において、第一線で活躍する研究者から直接講義や実習指導を受けることを通じて最先端の科学技術を体感させ、才能ある生徒を伸ばすための効果的な指導方法を修得させる合宿研修の開催と、合宿後のフォローアップを主とする事業として、平成 23 年から昨年度まで科学技術振興機構（JST）の主催で実施されてきました。

東北大学に日本で唯一の医工連携の独立大学院研究科として平成 20 年に設立された医工学研究科は、長年にわたり社会人技術者の再教育による医療工学人材育成事業を手がけてきた NPO 法人 REDEEM と共同で、平成 24 年度と平成 26～28 年度の計 4 年間にわたり SLC の受入実施機関として採択され、毎回 20 名の高等学校等の理科教員を対象に合宿研修を実施し、受講後のフォローアップを続けてきた実績があります。これまでの計 80 名の SLC 受講者に加えて、その後も高大連携等の交流を続けている受講者の勤務校や、講義・実習・施設見学等を担当した本学の教員や学生からの評価も極めて高く、JST による SLC の終了を惜しむ声が学内外から寄せられていることから、これを本研究科の独自事業として平成 29 年度も開催する運びとなりました。

2 実施機関

主 催：国立大学法人 東北大学 大学院医工学研究科

共 催：特定非営利活動法人 REDEEM

後 援（予定）：国立研究開発法人 科学技術振興機構

3 実施企画

「医工学の最前線に触れる ～工学と医学の融合研究と生命科学を体験～」

合宿研修期間：平成 29 年 8 月 17 日（木）～ 8 月 19 日（土）2 泊 3 日

主会場：東北大学 星陵キャンパス 医工学研究科 医工学実験棟

対象者：高等学校・中等教育学校の理科教員

定員：20 名

※実施のねらいやプログラムの詳細については別添資料にてご確認ください。

4 受講者募集・選考方法

受講者の募集・選考ならびに選考結果の通知は、東北大学大学院医工学研究科と REDEEM 事務局が共同で行います。

(1) 受講対象者

高等学校・中等教育学校の理科担当の教員（教育センター等で教員の研修指導を担当する者を含む）で、2 泊 3 日の合宿期間中の全ての研修に参加し、合宿後にその成果を勤務校や地域の教育現場に還元していただける方。（平成 29 年度末までに A4 版 1 枚分の活動報告をご提出いただきます。）

担当科目は問いません。これまでに SLC を受講したことがある方も応募できますが、小・中学校の先生は応募をご遠慮ください。

(2) 受講申込方法

受講を希望される方は、本実施要項と別添の開催概要・合宿内容の詳細をご確認の上、「東北大学大学院医工学研究科主催 平成 29 年度 サイエンス・リーダーズ・キャンプ 受講申込書 兼 推薦書」(エクセルファイル)のおもて面の【本人記入欄】に記入し、裏面の【推薦者(所属長)記入欄】に所属長(勤務校の校長等)による記載事項の確認と推薦を受けて、ファイルは電子メールに添付して、両面印刷・押印済の原本を郵送にて、それぞれご提出ください。

(電子メールと郵送の両方の提出をお願いします。)

(3) 申込期限・提出先

申込期限：平成 29 年 6 月 30 日 (金) ※都合により遅れる場合はご相談ください。

エクセルファイルを添付した電子メールは【当日必着】

※押印不要・PDF 等に変換したものは不可

ファイル送付先：REDEEM 事務局 (SLC 担当) slc-secretary@redeem.jp

両面印刷して押印した原本の郵送は【当日消印有効】

※本人の押印と所属先の公印押印が必要

郵送先：東北大学大学院医工学研究科 事務室総務係

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-12

(4) 受講者の選考

応募多数の場合は、受講希望理由や受講後の活用方法、主な活動実績・研修歴等をもとに総合的に判断し、教員経験年数や年齢も考慮して選考します。以下の項目に該当するなど、今後、都道府県等の地域の理数教育において中核的な役割を担うことが期待される方を優先します。

1. 現任校等において創意工夫した理数教育を実践している者
2. スーパーサイエンスハイスクール指定校等において指導等に携わることが期待される者
3. 地域の理数教育関係団体に所属して主体的に活動している者
4. 理数関係の部活動や課題研究等の指導に意欲的に取り組んでいる者

(5) 選考結果の通知

7 月初旬を目処に受講希望者本人と推薦者(所属長)宛に電子メールにより選考結果を通知します。

5 受講に係る経費等

受講料・教材費は無料です。合宿期間中の宿泊費 2 泊分、普通傷害保険(団体契約)料、キャンパス間移動のための貸切バス代も医工学研究科が負担します。

主会場までの往復交通費、合宿期間中の飲食費、前泊や後泊を要する場合の宿泊費は自己負担となります。

6 研修修了証書

2 泊 3 日の合宿期間中に実施する全ての研修を受講された方には、合宿最終日の閉講式で医工学研究科長より研修修了証書を授与致します。

7 提供された個人情報の取り扱いについて

受講希望者・推薦者の個人情報については、本学において適切に管理するとともに、その使用に当たっては、以下の目的のみに利用し、その目的の範囲を超えての使用は致しません。

1 受講希望者と受講理由等、推薦者と推薦事由等に係る情報の利用目的

- ・受講希望者の属性・推薦事由等の把握、受講者の選考及び選考結果の通知
- ・実施機関からの各種講座やイベント等の情報の提供

2 受講決定者個人に係る情報の利用目的

- ・受講決定者への本事業に関する諸連絡
- ・受講者の合宿研修時の組み分け（班編制）
- ・宿泊先への宿泊者情報の提供（氏名、勤務先名のみ）
- ・合宿研修のテキスト・研修修了証書・事業報告書への記載（氏名、勤務先名のみ）

【問合せ先】

東北大学 大学院 医工学研究科・准教授／SLC 実施主担当：沼山 恵子

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1 東北大学医学部構内 医工学実験棟 2 階

医工学研究科 社会人技術者再教育プログラム推進室

TEL : 022-718-5903 / FAX : 022-718-5902 / E-mail : slc-secretary@redeem.jp

東北大学大学院医工学研究科主催 平成 29 年度 サイエンス・リーダーズ・キャンプ 医工学の最前線に触れる ～工学と医学の融合研究と生命科学を体験～

主催：国立大学法人 東北大学 大学院医工学研究科

共催：特定非営利活動法人 REDEEM

後援（予定）：国立研究開発法人 科学技術推進機構（JST）

対象者：高等学校・中等教育学校
理科（全科目）の教員

合宿研修期間：2017 年 8 月 17 日（木）11：00～8 月 19 日（土）15：00 2泊3日

我が国唯一の医工連携大学院における医療工学人材育成手法と実習専用設備、東北大学 REDEEM プロジェクトの社会人再教育の実践経験を活かした 2 泊 3 日の合宿研修を 8 月に開催します。試験管内での転写・翻訳反応により得られるタンパク質の分析や自分達で組み立てた蛍光顕微鏡を用いる細胞の観察などの実習により、高校理科の新課程で大きく取りあげられている「生命科学」の面白さを体験し、スポーツ医学や人工内耳など最先端の「医工学」の研究・技術に触れる講義、工学系の研究室訪問、手術室や超解像顕微鏡などの施設見学を通じて、境界領域・複合領域への学問の進展を知ることにより、科目にとらわれない理科教育の重要性と理系進路の多様性を知り、コーチングの手法も用いた次世代の研究・開発人材育成法を学びます。さらに、女子生徒の理工系進路選択支援についての意識も啓発するプログラムです。

この合宿で得た知識・経験を教育現場での授業・課題研究・部活動の指導や進路指導に活かし、地域にも還元して理数教育の中核となっただけのよう、相談窓口の開設、ニュースレターの定期配信による情報提供などの継続的なサポートを行います。



会場

東北大学 星陵キャンパス・青葉山東キャンパス
仙台市青葉区星陵町 2-1 / 青葉区荒巻字青葉 6-6

主会場へのアクセス

仙台市営バス：仙台駅前バスプール乗車・厚生病院前下車
仙台市営地下鉄：南北線 北四番丁駅から徒歩約15分

会場URL

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/seiryo/>

宿泊先 ホテルグリーンライン

<http://www.bh-green.co.jp/hotel/line/>

募集人数

20 名

プログラムのねらい

(1) 東北大学工学部・医学部で医工連携研究・教育を推進する教授陣による医工学の最前線、学際的な研究、女性研究者育成支援に関する講義から、高等学校における理数教育の重要性を再認識し、コーチング実習を通して次世代の研究・開発を担う生徒に対する指導力の向上を目指す。

(2) コムギ胚芽抽出液を用いた無細胞転写・翻訳系でのタンパク質合成とその分析・蛍光顕微鏡の組立・細胞小器官の蛍光観察などの実験・実習を通じて、高等学校理科の新課程でさらに比率を増した 核酸・タンパク質・細胞について実感し、生命科学への理解を深める。

(3) 工学系の研究室、最先端の機器室や手術室を訪問・見学し、世界的に活躍している研究者と交流することにより、科学技術の進展や境界領域への研究の拡大を知り、理系進学時のキャリアの多様性についても学ぶ。

合宿研修スケジュール

1 日目 8 月 17 日（木）

開講式・受講ガイダンス

基調講演「医工連携の歩みと医療機器開発の現状」

実習 1：基本操作練習・mRNA 合成

手術室見学「医療機器の実物に触れる」

コーチング実習「サイエンスコーチへの期待」

実習 2：タンパク質合成

受講者・講師・研究者交流会

2 日目 8 月 18 日（金）

実習 3：蛍光タンパク質の観察

講義 1：スポーツの科学

カタールサイエンスキャンパスホール見学

青葉山キャンパス（工学系）研究室訪問

共通機器室見学「超解像顕微鏡の世界」

実習 4：蛍光顕微鏡を組み立てて光る細胞を観察

講義 2：人工内耳を用いた難聴の治療

3 日目 8 月 19 日（土）

実習 5：タンパク質の電気泳動

講義 3：理工系女性研究者育成支援の取り組み

実習 6：タンパク質の検出

グループ討論「学習指導と人材育成」

閉講式・研修修了証書授与

プログラムの関連 Web サイト

東北大学大学院医工学研究科 <http://www.bme.tohoku.ac.jp/>

東北大学 REDEEM プロジェクト <http://www.redeem.jp/>

東北大学 医工学 サイエンス・リーダーズ・キャンプ

<http://www.redeem.jp/sl/c/>



REDEEM
Recurrent Education for the Development of
Engineering Enhanced Medicine
Tohoku University

東北大学大学院医工学研究科主催 平成 29 年度 サイエンス・リーダーズ・キャンプ
「医工学の最前線に触れる ～工学と医学の融合研究と生命科学を体験～」

国立大学法人 東北大学 大学院医工学研究科／特定非営利活動法人 REDEEM

合宿内容の詳細について

【合宿研修開催日】平成 29 年 8 月 17 日（木）～ 8 月 19 日（土） 2泊3日

【主会場】東北大学星陵キャンパス 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/profile/campus/01/seiryo/>

医工学研究科 医工学実験棟（建物番号：B 07）

1 階 医工学実習室（実験室・手術室・画像解析室） **S 1**

2 階 医工学共同講義室 **S 2**

星陵会館（建物番号：B 10） 1 階 星陵食堂：昼食会場

【副会場】東北大学青葉山東キャンパス 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6

<http://www.eng.tohoku.ac.jp/map/>

※主会場から貸切バスで移動します

工学部 管理棟（建物番号：C 05）

1 階 医工学研究科共通機器室 **A 1**

カタールサイエンスキャンパスホール **Q S C**

2 階 医工学研究科講義室 **A 2**

ナノ医工学研究棟（建物番号：A 13） REDEEM 講堂 **R**

工学部 中央棟（建物番号：C 01） 1 階 あおば食堂：昼食・夕食会場

【宿泊先】ホテルグリーンライン 〒980-0824 仙台市青葉区支倉町 1-20

<http://www.bh-green.co.jp/hotel/line/>

※主会場から徒歩約 10 分

研修の主会場となる「医工学実験棟」は医工学研究科の教育施設で、仙台駅からみて北西側に位置し、医学部や大学病院を有する星陵キャンパスの西端にあります。集合・解散場所もこちらです。1 階に実習専用に整備された実験室・細胞培養室・画像解析室・手術室からなる医工学実習室を、2 階に医工学共同講義室を備えており、1 日目・3 日目の全日程、2 日目午前中の実習・講義をこの主会場で実施します。

2 日目には工学部がある青葉山キャンパスへ貸切バスで移動し、施設見学・研究室訪問、蛍光灯顕微鏡組立実習と夜の講義を実施します。

【スケジュール・1日目】

日付	活動内容	会場
8/17(木)	10:30 開場・受付（飲食費集金）	
	午前 11:00 開講式 研究科長挨拶・REDEEM 代表挨拶・講師紹介・受講ガイダンス	S 2
	11:30 基調講演「医工連携の歩みと医療機器開発の現状」 医工学研究科 研究科長・生体機能創成学分野 教授 (工学研究科 ナノ精度加工学分野 兼任) 厨川 常元	
午後	12:00 集合写真撮影	
	12:10 昼食休憩（医学部学食にて各自）	星陵食堂
	13:00 実習ガイダンス	S 1
	13:10 実習 1 「基本操作練習・mRNA 合成」 医工学研究科 生体流体力学分野 准教授 沼山 恵子 他 マイクロピペッター操作練習・無細胞合成系における転写反応	実験室
	14:40 手術室見学「医療機器の実物に触れる」 医工学研究科 骨再生医工学分野 教授 鎌倉 慎治 他 内視鏡外科手術装置・超音波凝固切開装置・小動物用 MRI 等の見学	S 1 手術室・ 画像解析室
	15:20 コーヒーブレイク	
	15:40 コーチング実習「サイエンス・コーチへの期待： 医工学研究科における授業の経験から」 医工学研究科 リハビリテーション医工学分野 教授 (医学系研究科 肢体不自由学分野 兼任) 出江 紳一 ^{いずみ}	S 2
	17:10 休憩・移動	
	17:20 実習 2 「タンパク質合成」 医工学研究科 生体流体力学分野 准教授 沼山 恵子 他 無細胞合成系における翻訳反応	S 1 実験室
	18:50 休憩・移動	
	19:00 受講者・講師・研究者交流会 夕食を兼ねた立食形式の交流会・1分間スピーチ	S 2
	20:30 宿泊先へ徒歩移動・チェックイン	

【スケジュール・2日目】

日付	活動内容	会場
8/18(金) 午前	08:30 宿泊先から星陵キャンパスへ徒歩移動	
	08:45 朝礼 医工学研究科 特任教授／REDEEM代表理事 山口 隆美	S 2
	08:50 実習3「蛍光タンパク質の観察」 医工学研究科 生体流体力学分野 准教授 沼山 恵子 他 励起光照射による蛍光観察・電気泳動用試料調整	S 1 実験室
	09:50 休憩・移動	
	10:00 講義1「スポーツの科学」 医工学研究科 副研究科長・健康維持増進医工学分野 教授 (医学系研究科 運動学分野 兼任) 永富 良一	S 2
午後	11:00 星陵キャンパスから青葉山キャンパスへバス移動	
	11:30 カタールサイエンスキャンパスホール見学 工学研究科 ファインメカニクス専攻 准教授 (医工学研究科 ライフサポート工学分野 兼任) 山口 健	Q S C
	12:00 集合写真撮影	
	12:10 昼食休憩 (工学部学食にて各自)	あおば食堂
	13:00 日程説明・徒歩移動	A 2
	13:10 A・B 青葉山キャンパス研究室訪問 (30分×2箇所) 医工学研究科・工学系の研究室	青葉山 キャンパス内
	C・D 共通機器室見学「超解像顕微鏡の世界」 医工学研究科 病態ナノシステム医工学分野 准教授 神崎 展	A 1
	15:00 徒歩移動・休憩	
	15:10 実習4「蛍光顕微鏡を組み立てて光る細胞を観察」 工学研究科 生体流体力学分野 准教授 菊地 謙次 学際科学フロンティア研究所 助教 畠山 裕康 他 明視野観察用光路組立・蛍光観察用光路組立・プレパラート作製 ボルボックスの遊泳挙動・葉緑体の自家蛍光・細胞小器官の観察	R
	18:30 徒歩移動	
	18:40 夕食休憩 (工学部学食にて各自)	あおば食堂
	19:30 講義2「人工内耳を用いた難聴の治療」 医工学研究科 聴覚再建医工学分野 教授 (医学系研究科 聴覚・言語障害学分野 兼任) 川瀬 哲明	A 2
	20:30 青葉山キャンパスから宿泊先へバス移動	

【スケジュール・3日目】

日付	活動内容	会場
8/19(土)	08:30 チェックアウト・宿泊先から星陵キャンパスへ徒歩移動	
午前	08:45 朝礼 医工学研究科 特任教授／REDEEM代表理事 山口 隆美	S 2
	08:50 実習5「タンパク質の電気泳動」 医工学研究科 生体流体力学分野 准教授 沼山 恵子 他 SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動	S 1 実験室
	09:50 休憩・移動	
	10:00 講義3「理工系女性研究者育成支援の取り組み」 東北大学男女共同参画推進センター 副センター長 東北大学工学系女性研究者育成支援推進室(ALicE) 室長 医工学研究科 医療福祉工学分野 教授 (工学研究科 ロボティクス専攻 兼任) 田中 真美	S 2
	11:00 休憩・移動	
	11:10 実習6「タンパク質の検出」 医工学研究科 生体流体力学分野 准教授 沼山 恵子 他 CBB染色・In Gel Western	S 1 実験室
午後	12:20 休憩・移動	
	12:30 グループ討論「学習指導と人材育成」 昼食を兼ねたグループごとの意見交換会 医工学研究科 研究科長・生体機能創成学分野 教授 (工学研究科 ナノ精度加工学分野 兼任) 厨川 常元 医工学研究科 特任教授／REDEEM代表理事 山口 隆美 他	S 2
	14:00 3日間の合宿研修の振り返り・合宿後のスケジュール説明 アンケート記入	
	14:30 閉講式 副学長講話 東北大学 副学長・工学研究科 電子工学専攻 教授 (医工学研究科 生体超音波医工学分野 兼任) 金井 浩 研修修了証書授与・集合写真撮影	
	15:00 解散	

【合宿研修の内容について】

このプログラムの合宿研修では、数学や物理法則、化学的・機械的・電気的特性などに基づく工学的な技術と、医学・生物学の知識の両者が必要とされる「医工学」という境界領域研究の最前線を知っていただき、物理・化学・生物・地学の科目の枠には収まりきれない学問・研究分野の多様性とその進展を学ぶことを通じ、受験科目にとらわれない連続的な「サイエンス」として理数教育を捉え、高等学校における理科教育の重要性を再認識していただきたいと考えています。また、自らの手で実物を扱って実験することにより、実感が「生命科学」の理解に繋がることを体験し、理科教育における実験の役割や効果的な指導方法も再確認していただけるはずです。女子生徒の理工系進路選択支援や、研究・開発に携わる人材の育成方法についても取りあげます。本企画での経験を教育現場に還元し、教科指導力の向上や進路指導に活かしていただくこと、生徒の理数系の才能を発掘して、効果的な指導により伸ばし、次世代の科学技術分野の研究・開発を担う人材の育成に貢献していただくことを期待しています。

よく解らないことやさらに知りたいことなどは、何でも遠慮なく講師に質問してください。

○講義

講義は東北大学工学部・医学部で医工連携研究・教育を推進している医工学研究科の教授陣が担当し、医工連携の歴史と医工学の最前線、境界領域の学際的な研究、医療工学人材育成・女性研究者育成支援の取り組みなどについてお話しします。

○実習

実習は原則として2人1組、一部の实習は4人1班で行います。詳しい実習書に沿って複数の講師が指導に当たり、大学院生のTA（ティーチング・アシスタント）もつきますので、実験経験の無い初心者でも全く問題ありません。愛媛大学発の生命科学実験教材であるコムギ胚芽無細胞タンパク質合成系を用いた転写・翻訳実験と、発現した蛍光タンパク質の観察・分析、明視野・蛍光顕微鏡の組立、ボルボックスの遊泳挙動と葉緑体の自家蛍光観察、蛍光染色した培養細胞の核・細胞骨格の観察など、核酸・タンパク質・細胞に関する様々な実験を行います。

○コーチング実習

高校生の中でも課題研究に取り組んでいるような生徒を伸ばすための効果的な指導方法としては、「ティーチング」ではなく、大学院生の才能を開発する手法として適している「コーチング」が有効と考えられます。医工学研究科の出江教授は、コーチング理論に基づくコミュニケーショントレーニングを実践しているコーチングの専門家です。本学でのコーチングに関する授業の内容や成果を紹介し、コーチングの基礎を実習形式で学びます。

○施設見学・研究室訪問

施設見学・研究室訪問は5名程度のグループで回ります。初日の手術室見学では星陵キャンパスの主会場にある大型動物用の手術室と画像解析室で各種医療機器をご覧いただき、2日目は青葉山キャンパスの工学系の複数の研究室を訪問し、医工学研究科共通機器室の超解像顕微鏡も見学します。世界的に活躍している研究者の解説付きで最先端の研究施設や実験設備を用いた第一線の研究に触れることにより、科学技術の進展や境界領域への学問・研究の拡大を知っていただくとともに、実際にその環境で学び、研究を行っている学生・大学院生・若手研究者との交流を通じて、理系進学時のキャリアの多様性についても実感することができます。

カタール国からの被災地復興支援の資金援助により、子供達を対象にもものづくりや科学実験に関するイベントを開催しているカタールサイエンスキャンパスホールの見学も行います。

○交流会

初日の夜は立食形式の夕食を囲む交流会で受講者同士の親睦を深め、講師・研究者との交流を計ります。事前に提出していただく自己紹介カードをテキストに綴じ込んで配付しますので、会話のきっかけとしてご活用ください。この交流会の中で自己紹介（1分間スピーチ）の時間を設けます。学内からは、講義・実習の担当講師やTAの大学院生の他、医工学関連分野の工学系・医学系・理学系の様々なバックグラウンドを持つ教職員・研究者が参加します。

○グループ討論

3日目のグループ討論では、受講者5名に2名程度の大学教員・大学院生を加えた少人数のグループで昼食をとりながら、高校と大学のそれぞれの現状を語り合い、学習指導と人材育成について意見交換を行います。

【受講要件】

高等学校・中等教育学校の理科（全科目）の教員を対象とします。

結果を元にグループ分けを行うための「実習に関する事前調査」と、自己紹介カードの記入・事前提出にご協力いただく他は、受講者に求める要件は特にありません。生物を専門としない他科目の先生の受講も歓迎します。（例年約半数が生物以外の先生です。）

合宿研修後に、勤務校での授業や課外活動、地域の研修会・研究会等において合宿の成果を教育現場に還元するような取り組みを行っていただき、レポートの提出をお願い致します。

【宿泊について】

合宿研修期間中の2泊は、受講者全員で同じホテルに宿泊していただきます。宿泊費は本学医工学研究科が負担します。

遠方からお越しの方が前泊・後泊を必要とされる場合、その分はご自身で宿泊先を手配していただき、宿泊費も自己負担をお願い致します。

【交通費について】

主会場までの往復交通費は自己負担です。公共交通機関での来場を強く推奨します。

【飲食費について】

初日夜の交流会費用（お料理・お酒・ソフトドリンク代：3,000円）、3日目昼の弁当・お茶代（1,000円）、コーヒーブレイク・休憩時のソフトドリンク・お菓子代（500円）を合わせて、計4,500円のご負担をお願い致します。この飲食費は受付時に集金させていただきます。

上記以外の合宿期間中のホテルの朝食代、学食での昼食・夕食代なども自己負担となりますので、各自でお支払いください。

※受講料・教材費は無料です。